

にかはりて一定せず、生年衰日は一定して、その人生涯かはることなし、故に行年衰日の嚴なるに及ばざるを以て、遂にとゞめられしなるべし、是を徳日と稱すること、またいつよりといふことを詳にせず、けだし凶事を吉事といひ、病痾を歡樂といへる例なるべし、

〔年中行事秘抄正月〕廿五日 始外記政事

御齋會終日、外記令撰吉日、申殿下之後披露之、十六七日間歟、避御衰日并執柄衰日、歟、檢非違使應政同日行之、

〔本朝世紀〕天慶二年十二月二十二日戊午、除目延引、太政大臣依聊所腦不被參入、立春之後主上御衰日之故也、

〔小右記〕長和二年二月廿六日戊子、源中將朝臣雅通、使將監保信令申云、有無止之事、罷下於國、來月十餘日可上手結間、不可罷會、可被仰他將等可著行之由、唯手結來月三日被行宜歟者、答云、來月三日廢務日、可無便、十一日射禮、彼日以前撰吉日可行也、引見曆、四日宜、而六日行眞手結、當衰日、改月之後衰日、初給饗祿如何、五日凶會、六日衰日、七日坎日、八日宜、而重日、改月被行之、最初月重復日、可無便歟、九日吉日、彼日可宜歟、眞手結十日行之、有何事乎、雖連日、於無吉日、可無傍難歟、至後年、五日荒手結、七日眞手結行之可宜、但至日事、可問陰陽師之由、且仰之、只大略所仰也、

〔左經記〕長元元年七月十一日甲辰、關白殿藤原頼通仰云、益事、依天曆八年村上先帝令供給例、可供也、但十四日衰日也、仍十五日可供也、仍十五日可供者、熟食可調備也、但不當御衰日、院宮所々者雖不熟食、唯任例十四日被送寺有何事乎、

〔續古事談王道后宮〕堀川院御時ノ逍遙ニ、序代カクベキ人ナカリケリ、大業藏人國資無才ノ者ニテ人ユルサズ、五位藏人時範カキテケリ、其日主上殿上ニテ、人々ニ連句イハセ給ケルニ、國資ニ、末句イヘト被仰ケレバ、今日ワタクシノ衰日也、ハカリアリト申ケレバ、主上殿上ノ曆ヲ召テ